



東北大学



2015年1月9日

報道関係者各位

東北大学病院

東北大学病院「小児腫瘍センター」を開設 -東北唯一の小児がん拠点病院として診療体制を強化-

東北大学病院（下瀬川 徹 病院長）は、小児腫瘍センター（呉 繁夫 センター長）を新たに設置し、2015年1月より運用を開始します。

2013年2月、当院は、厚生労働省より東北地区では唯一となる「小児がん拠点病院^{※1}」に指定されました。この指定を受け、当院では、これまでの東北地区小児がん診療病院との連携や診療実績に基づき、難治性あるいは専門的診療を必要とする小児がん患者を集約して治療するためのさらなる体制整備を進めてきました。今回開設する小児腫瘍センターは、当院における組織横断的な小児がん診療を強化するとともに、東北地区及び宮城県内の小児がん診療連携体制を構築し、東北地区全体の小児がん診療を推進していきます。

小児腫瘍センターWeb サイト：<http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/>

【詳細】

小児腫瘍センターでは、下記の取組みを推進しています。

●東北ブロック及び宮城県内の連携体制の構築

東北ブロック内の拠点病院と小児がん診療病院は、疾患や病態に関して役割分担をして診療に当たります。具体的には、初発症例などの標準的治療が必要な場合は、利便性を考慮し、今後も各県の大学病院小児科、主要関連病院等の小児がん診療病院での診療を継続します。一方、再発あるいは難治性疾患、高度の手術手技を要する脳腫瘍症例、原発性免疫不全症を基礎疾患とした小児がん症例等は、患者と家族の同意が得られることを前提として、当院への集約化を図ります。また、宮城県内においては、宮城県立こども病院との連携をこれまで通り継続していきます。

当センターは、このような診療体制を推進するため、2014年8月に「東北ブロック小児がん医療提供体制協議会」を設置しました。協議会では、個々の症例に対して小児がん診療病院との連携を強化するとともに、東北地区における小児がん診療のあり方の検討と情報共有を図ります。

●院内における小児がん診療体制の整備

化学療法センター、緩和ケアチーム、がん診療相談室、成人診療科、院内関連診療科等との連携を強化し、再発・難治がんへの対応やAYA世代（思春期から若年成人期）の診療体制、緩和ケアの実施等、チーム医療による集学的治療の供給を目指します。

●人材の強化及び多職種診療体制の構築

現在、当センターには医師8名、看護師30名、臨床心理士3名、ソーシャルワーカー2名、院内学級教師及び保育士各6名の他、薬剤師、栄養管理士等を配置しています（今回、新たに保育士2名を増員）。全症例の臨床情報やトータルケアの検討、退院・在宅医療、復学

支援のための情報を共有するため、多職種による小児がん総合カンファレンスを行っています。また今後も、小児がん診療を専門とする人員の充実や育成に積極的に取り組みます。

●長期フォローアップ体制の整備

小児がん診療は病気が治癒した後も小児期から AYA 世代まで切れ目のない診療体制が求められます。当センターでは、成人診療科と密に連携し、小児がん診療病院と協力しながら、充実した長期フォローアップ診療を継続して受けることができる体制を整備しました。小児がんを克服した後に、手術や抗がん剤、放射線治療が原因で現れる後遺症「晩期合併症」等にも対応しています。

●入院設備の充実

当院小児科病棟内に、易感染性状態の患児のためのセミクリーン域^{※2}を設け、個室病床を今回新たに 6 床増設しました。合計で、クリーンルーム 2 床、セミクリーン個室 8 床、セミクリーン部屋 4 床となります。また、長期入院の付き添い者の負担軽減のために、簡易ベッドを用意しました。病棟内には、既存の内視鏡検査や超音波検査、日常的な処置を行うスペースがあり、様々な状況に迅速に対応するとともに、患者の便宜や感染防御などにも配慮しています。

●サポート体制の強化

病棟内にある 3 か所のプレイルーム（今回 1 か所を増設）に保育士を配置し、家族が所用で付き添えないときの一時預かりを実施しています。また、臨床心理士が治療中の心理的ケアに努めます。教育に関しては、院内学級（仙台市立木町通小学校、仙台市立第二中学校の東北大学病院分校）を常設しており、医師や看護師、臨床心理士等と情報共有のもと、居住地小中学校と連携して復学支援を行っています。

※1 小児がん拠点病院：

小児がん患者と家族が、適切な小児がん医療と支援を受けられる環境を整備することを目的として、「がん対策推進基本計画」に基づいて厚生労働省が指定した施設。全国 7 ブロックから 15 施設が指定を受けている。

※2 セミクリーン域：

高性能フィルターを通過した空気を供給する区域。抗がん剤治療や骨髄移植などの治療を受け、免疫力が著しく低下した患者が、細菌やウイルス、カビなどの微生物により空気感染するリスクを減らす。今回、領域内に個室 6 床とプレイルームを設置した。

【お問い合わせ】

東北大学病院 広報室

溝部 鈴（みぞべ れい）

TEL：022-717-7149 FAX：022-717-8931

e-mail：pr@hosp.tohoku.ac.jp